

# 静岡県で活躍する医師



浜松赤十字病院

病院長

俵原 敬 医師

## —— 医師をこころざしたきっかけを教えてください。 ——

俵原 医師 小学生のころは漠然と将来は人のためになりたいと思っていました。私は高校生で将来を考えた時、そのころ人気漫画であった手塚治虫のブラックジャックを読んで、医者になりたい! と思ったのがきっかけでした。腕の良い医者になって患者さんを助けるイコールひとのためになる。私は医者を目指す動機はひとそれぞれでなんでも良いのだと思っています。プロフェッショナリズムとは専門家としての精神を指しますが、まさに医師は人間の命を預かる専門的能力とモラルが求められます。今現在の心境としては本当に医師になってよかったな、と思っています。

## —— 院長に就任してからの現況を教えてください。 ——

俵原 医師 当院は地域医療支援病院、基幹型臨床研修病院、災害医療拠点病院の指定を受けている総合病院です。そのほか救急医療体制の輪番制2次救急の一翼を担っています。最近では当院に地上のヘリポートもあるため天竜区や春野町から防災ヘリを利用した山間部からの救急搬送も増加傾向です。また日本赤十字社の病院として、赤十字の使命である災害救護の準備も常に整えているところです。2024年1月1日には能登半島地震が発生し当院からもDMAT、コーディネーターチーム(Cot)、救護班を発災約1月で5班派遣しました。

病院所在地は近年ベッドタウンとして浜松市中でも人口増加している区(旧浜北区)であり、今年からこの地区の都市開発が本格的に動き始めます。当院の位置は大街区エリアにありそこは交流・賑わい拠点・医療福祉を核とした街としていくとあります。その周辺には住宅地が広がる予定です。浜松赤十字病院はさらに地域で信頼され愛される病院となり、この地区の核となり将来ますます良い街になるよう努力していく所存です。



## —— 循環器内科を専攻したきっかけと魅力を教えてください。

俵原 医師 循環器内科医としてのやりがいは第一に死に直面した患者さん（急性心筋梗塞など）を治療して、患者さんは命を助けてくれた！と思っただき大変感謝してくれることでしょうか。第二には循環器内科の分野は、絶えず進化しており、それを学ぶことは一生楽しめるということです。たとえば冠動脈形成術（PCI）、カテーテルアブレーション、植え込み型除細動器、冠動脈 MDCT、心エコー、MRI、核医学など画像診断の進歩などなど。

## —— 若手医師との関わりや指導について教えてください。

俵原 医師 最近では当科の部長・副部長のドクターが手技的なこと（循環器内科分野は学ぶべき手技が多い）の直接指導をしてくれますので自分が直接指導することは少なくなってきました。ただ医療というのは手技だけではなく根本的な病態を理解し考えて診断し治療することが必要ですのでカンファレンスや学会発表などでは指導することを心がけています。

## —— 医師を目指す方や若手医師にメッセージをお願いします。

俵原 医師 医師は高度で専門的能力が要請される仕事を遂行し、能力のみならず誠実に倫理を守って社会や人間に貢献していくことが求められます。さらに能力の研鑽のみならず、経済的利害を超えた倫理的精神が重要となります。医学は日進月歩ですから一生勉強が続きます。医師になりたい方は覚悟を決めて医師になることを目指してください。  
Where there's a will, there's a way.  
皆さんが医師になり活躍されることを願っています。



### プロフィール

## 俵原 敬 医師

#### 趣味

- ・ 食べ歩き
- ・ 写真撮りながらの散歩
- ・ ゴルフ

- 1983年3月 宮崎医科大学医学部（現在の宮崎大学）卒業
- 1983年4月 浜松医科大学第三内科入局
- 1984年6月 県西部浜松医療センター循環器科富士宮市立病院循環器科
- 1986年4月 浜松医科大学第三内科
- 1994年4月 浜松赤十字病院 内科（循環器）副部長浜松赤十字病院 循環器内科部長
- 1997年7月 浜松赤十字病院 循環器内科部長
- 2006年4月 浜松赤十字病院 副院長 兼 循環器内科部長
- 2023年4月 浜松赤十字病院 病院長